

第1回自治・安全部会 まとめ

日時 平成21年7月29日（水） 午後2時～午後4時20分
場所 上京区役所2階大会議室
出席者 立木部会長，栗津委員，五十嵐委員，伊藤委員，大串委員，小野委員，
絹川委員，倉辻委員，小林委員，高田委員，藤林委員，山田委員

部会長ミニ講演摘録

■テーマ：『地域コミュニティと安全・安心：ソーシャルキャピタルに注目して』

○今日のテーマについて

- ・今日のキーワードの1つはソーシャルキャピタルに注目して自治と安全を考えるということ。ソーシャルキャピタルとは平たくいうと地域力と理解して頂ければよい。神戸市内で地域力と安全・安心がどのように関わっているのかを調査したので、その時の話をしたい。
- ・平成18年は神戸市内の中で地域力が非常に高いところを選び、実際に住民の方々にお話を伺った。その結果、元気なまちには7つぐらいの特徴があり、その7つの切り口で様々な活動を行うと地域力が高まることが分かった。
- ・平成19年には前年度の結果を踏まえて、7つの軸それぞれに調査票を作成し、数字の上で当てはまるのかどうか調査した。結果としては、地域力は7つではなく5つの切り口に働きかけることで地域の安心・安全が高められる、維持されることが分かった。

○ソーシャルキャピタルとは

- ・分かりやすく言えば、①見ず知らずでない方に対してこの人は基本的には良い人だと見なし接するという『信頼』がある、②『お互い様意識』が住民に根付いている、③みんな対等で平等であり、立場の異なる方でもこの指止まれ式に参加できる『水平的人間関係』がある、という3つの特徴を備えていると、そこでは住民同士で協力関係が非常に芽生えやすく、何か起きた場合に直ぐに協力し合い、助け合うという特徴がある。これはどのようにしたら高められるのかということがお話ししたいことである。

○平成18年の調査について

- ・神戸市内の9つの地域で検討した。例えば、三宮駅の北側に二宮という地域があるが、ここはワンルームマンションやラブホテル街に囲まれて一般の住宅地がある。ワンルームマンションには単身者や外国人の方が多く住まわれていて、この地域ではゴミ出しのルールが守られない人が多いことに対して地域の方が何とかしようと活動され、今ではゴミ出しのルールが徹底されている。
- ・そのような事例から、地域を元気にする7つぐらいの切り口が見えてきた。地域力とは、ゆるやかな人のつながりができて、お互いに思いやり、信頼、親切、おせっかいをやく人間関

係があって、お互いに助け合い友達になるような雰囲気があるという場合に、これは自然と出来る場合もあるだろうが、7つの切り口で努力すれば高めることができる。

- ・切り口の1つ目に、イベントを重視していることがある。例えば、ゴミ出しルールの話で言えば、ゴミ出しルールを守ることをイベントでも上手く利用していて、ゴミ出しクイズを行ったり、のぼりを立ててパレードしたりということをされている。(イベント軸)
- ・次ぎに、子供との関わりがある。子供を上手く関わらせると、自然と親も関わってくる。そういうことを、町内会長さんや自治会長さんが意図的にされていた。(こどもとの関わり軸)
- ・それから、地域の歴史や文化を知ってもらうことがある。地域の歴史や文化を知ることで、愛着が湧く。人は愛着が湧くとこのまちを何とかより良くしたいという思いが高まっていく。(地域・テーマの興味・愛着軸)
- ・また、皆さんにとっては当たり前かもしれないが、元気な地域は挨拶を大事にされている。事例の中に、北須磨団地という40年以上経過している団地がある。ここでは学校帰りの子供達と大人との間で、「ただいま」「おかえり」というやり取りが日常的に行われている。これは自然と生まれたものではなく、自治会が小学校と連携して挨拶運動を意識的にされた結果である。(あいさつ軸)
- ・さらに、元気がある地域は色々な住民の層の参加という特徴があった。(多様な住民参加軸)
- ・そして、共通の課題(敵)が明快であるところほど、お互いに協力関係にあり、地域力が高まるということがあった。(共通の課題軸)
- ・最後に、行政との関係がある。対等な関係であるように地域の自治がしっかりしているところほど、地域力が高いということがあった。(自律力)

○平成19年の調査について

- ・平成19年調査では、7つの切り口によって本当に地域力が高まっているのか確認する調査を行った。
- ・調査結果から、平成18年には7つあると思っていた軸が5つに集約されることが分かった。5つの軸の1つ目は、多様な住民参加軸である。多様な住民が参加出来るためには、その地域で住民同士の間を取り持つ仲介者のような方が必ずいる。様々な住民層が参加することで地域力が高まるということが確認された。
- ・2つ目に、イベントがある。大人も子供も参加できるイベントを熱心に取り組んでおられると地域力が高まるということが確認された。
- ・3つ目に、組織の自律力の確保がある。自律力、自治力はなぜ必要かということだが、1つはその地域で問題が起きた場合に、住民だけでは、また行政だけでは解決できず、やはり住民と行政とが相互に役割分担しなければ解決できないことがある。住民側に求められることはリーダーがいる場合にそれをサポートするフォロアーがいること。だいたい5人くらいリーダーとフォロアーがいる地域では、地域活動が熱心であることが確認された。
- ・4つ目に、地域への興味・愛着がある。これはこの軸だけで地域力を高めている。
- ・5つ目に、挨拶がある。挨拶を意図的にされているところは地域力が高いことが確認された。北須磨団地では、挨拶を広めるにはコツがあって、挨拶の「あ」は明るく、「い」はいつもする、「さ」は相手よりも先にする、「つ」はこれを続ける、ということで、「明るくいつも先に

続ける」を広めていくことで、日本で一番空き巣が少ない地域と言われている。

- ・消防関係でいうと、全国の政令市の中で放火件数が以上に少ないのが京都市であり、それは地域力が高いからである。その背景には、歴史や文化があり、学区単位の町衆の自治力があるって、地域のイベントが多様に展開されていて、さらに様々な住民が参加されているということがある。

○地域力が高いことのメリット

- ・地域力の高さと安全・安心との関係についても調べている。神戸市内の全自治会長、マンション管理組合に対して行った調査結果からは、地域の中にある些細な秩序びん乱（無作法的）が住民の安全・安心感に大きな影響を与えていることが分かった。
- ・秩序びん乱とは、ゴミの散乱や壊れた街灯がどれだけあるか、また中高生の喫煙、夜間のたむろをどれだけ見かけるか、暴走族徘徊などである。重大犯罪とはいえなくても、社会秩序がちょっと乱れているそういう状態を指す。
- ・地域の安心・安全感は、地域の中の些細な秩序びん乱にだいぶん左右されており、秩序びん乱の度合いの低いところは地域力の豊かなところで、秩序びん乱を抑止、予防する力があるということであった。結果としてそれが安心感につながっている。
- ・5つの軸の取組の結果として社会秩序びん乱が抑えられ、最終的に住民自身が客観的な数字な上でも安全であるし実際に暮らしていても安心であることがデータの上でも確認された。

ワークショップのまとめ

■テーマ：こんな地域に暮りたい，こんな上京区にしたい

第1班で出された意見 キーワード：空き家・空き部屋，学生の増加，学生との交流，地域のルールづくり，挨拶・声掛け，地域内の交流

【上京区 学生のすまい】⇒地域社会で学生を育てる姿勢があるといい

○新しいマンション建設に頼らず空き家・空き部屋を活用した地域参加型の現代風下宿を展開する

《マンション》

- ・マンションが足りない
- ・学生だけのマンションは困る（ちゃんと大家のワンルームなら大丈夫）
- ・地域に協力してもらってマンションを建てる

《空き家・空き部屋の活用》

- ・同志社大学の学生に上京区の空室に入ってくれないか
- ・母も一人暮らしで片付けられないが，家は広い
- ・空家調査が必要ではないか
- ・学生ワンルームより昔の下宿的やり方が求められる

《学生と住民の付き合いなど》

- ・学生と一緒に暮らすと心強い
- ・有意義な上京での生活を過ごしてもらう
- ・地域住民と学生の話し合いの場が必要
- ・できるだけ声をかけあうようにする
- ・学生住民と日頃からお付き合いをする
- ・大家と学生が食事もする
- ・あいさつで顔が見える
- ・町費支払い，ゴミ出しなどのルール作りをする
- ・学生は生活(アルバイトなど)で忙しいという問題がある

【交通安全・防災】⇒防災マップの作成・普及，自転車の安全対策を促進するとい

○街頭啓発など自転車安全対策を促進する

- ・街頭啓発(ビラ・ティッシュ配り，注意，呼びかけ)
- ・無灯火自転車を減らす
- ・民生委員に協力してもらって解決する

○地域別防災マップの作成

- ・防災マップはあるのか(春日などにはある)
- ・地域の声掛けがあると安心だ

【多様な人々のつきあい】⇒多様な人々の交流のため，みんなが集まれる場所・仕組みがあるといい

○学生や新旧住民間の地域交流を促進する

- ・子どもについて，神戸は熱心だが，京都はクールである
- ・上京区内でどの年齢の人，どんなリスクのある人もみんなと同じことをするような場があると良い
- ・ふれあいまつりが既にある。
- ・自治会に入らない人が何らかの行事に関われるようにしたい
- ・出町商店街と学生，旧住民と新住民の交流

- ・(私は自治会に入っていないので) ふれあいまつりに行ったことがなく、地域デビューできていない
- ・エディブルシステム(食べられる植物を育てる組立式花壇を広めようとしている人々がいるらしい)は、かつての地藏盆かもしれない
- ・地藏盆や上御霊神社の祭
- ・マンションで BBQ 大会では、マンション建設に当初反対だった近所のおばちゃんがやがて来てくれるようになった
- ・持ちよりの宴会が町内や地域で気軽にできるようになったら楽しい
- ・家の犬がコミュニティー犬化して、近所の子が借りに来る

【その他】

- ・高齢者向けのマンション

第2班で出された意見 キーワード：世代間の交流、世代間格差、子育て、信頼関係、街頭啓発、挨拶・声掛け、安全

【世代間交流について】⇒みんながつながるイベントを創出・継続していくといい

○上京区全体で多様な世代の交流を促進する

- ・普段から上京区全体で取り組めるイベントなどがあればよい
- ・若者がイベント作りに関わる必要がある
- ・様々な年代の方も参加する
- ・世代間のつながりを生む場
- ・住協のイベントの参加者が少ない
- ・大勢の人が集まるものにする
- ・内容の工夫が求められているのでは

【子育てについて】⇒子供を地域で見守っていくといい

○地域で見守る子育て支援を展開する

- ・親へのアプローチが必要では
- ・子供の方がしゃべってもらいやすい
- ・おじいちゃん、おばあちゃんと住み慣れていない
- ・大家族で面倒を見る
- ・世代格差が埋まることが必要では

【個人情報の問題について】⇒個人情報保護の壁を乗り越えるため、常日頃のお付き合いがあるといい

- ・個人情報の取り扱いの問題
- ・学区内の名前と電話番号の名簿
- ・電話帳を活用してはどうか
- ・参加してもらえるイベントが定着しつつある
- ・信頼関係が強い

【交通安全について】⇒自転車と共存できるまちが一番いい

○歩車分離など交通安全対策を促進する

- ・歩車分離を進めないと危険である

- ・後ろからの自転車のベルでは避けられない
- ・堀川商店街は危ない
- ・中立売通は、自転車は走れない

【安心して暮せるまちについて】⇒挨拶・声掛けが気軽にできるまちがいい

- ・気がついた方が、挨拶、声掛けを続けることが重要である
- ・朝の立番
- ・困るという方に対して、どう対応するか
- ・障害者も顔を覚えてもらうことがプラスになる
- ・今の子供たちは挨拶をしない
- ・挨拶はコミュニケーションの第1歩のきっかけである
- ・習慣の問題がある
- ・声が頼りなので、もっと声掛けがあればよいのでは